

商業観光都市における建築意匠の変容的継承に関する研究

A Research on Variable Inheritance of Traditional Architectural Design in Historical Sightseeing Town,

指導教官 齋藤 潮

97 M 4 3 1 7 1

仲川 岳人

SYNOPSIS

The purpose of this research is to measure the condition of architectural design in historical sightseeing town. Standpoints for the measurement are "Material characteristics" and "Iconic characteristics." They are extracted by the detail analysis of architectures on the approach of "Naritasan Shinshouji temple." Eight checkpoints are brought out from two characteristics. They are matters for investigation of each architectures.

235 architectures in 4 temple towns are graded with the measurement method. The result of measurements is charts, which show the distance between newly constructed traditional architectural design and authentic architectural design. also showed differences and similarity of charts which indicate community's attitude towards historical architectural design.

1章 序章

1-1 研究の背景と目的

近年、観光商業を目論んだ都市景観の歴史性の演出が多くの都市で行われている。都市景観の歴史性演出は、現在のその都市が置かれた状況によりさまざまであるが、凍結保存を行わない限りなんらかの変容が加えられる。その変容は都市景観を構成する最小要素である建築部位に顕著に表れ、その建築部位意匠の変容的継承の特質を知る手がかりを与えてくれる。そこで本研究では建築部位に着目する。各部位の地場在来のものとの差異を測り累積することにより、歴史的建築意匠変容の都市ごとの共通性及び差異を明らかにし、その要因を把握することを目的とする。

1-2 研究の方法

本研究においては以下の手順で研究を進めた。

①成田山新勝寺表参道建築物の表層分類
成田山新勝寺表参道を取り上げ参道沿道の建築物の和風意匠を部位ごとに分類し、考察した。

②表層分類から分析軸の抽出

成田山新勝寺表参道沿道建築の和風演出の考察から「形式性」と「物質性」という2つの分析軸を抽出した。

③伊勢、長野、長浜、成田、における分析軸による分析

②で抽出した二つの分析軸に関し各4項目の評価点を設定した。評価点に則り参道沿道建築物の表層部位を採点し、その結果を図表化後、考察した。

1-3 対象地の選定

本研究の対象地として近年活発に和風建築の改修、新築が行なわれ、かつ和風建築の割合の高い歴史的商業観光都市を取り

上げた。該当地として成田山新勝寺表参道、長野善光寺参道、長浜御坊大通寺表参道を対象とした。これらの都市は自動車交通の発展により大きな影響を受けたという共通性を持っている。

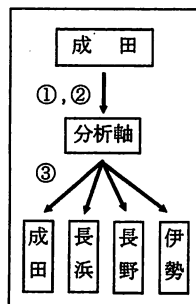
1-4 研究対象建物

対象とした建築物は参道沿道にあり何らかの和風建築部位¹を使用しているものである。その対象地数は表1のようになった。

表1 対象物件数

対象地	成田	長野	長浜	伊勢
対象建築数	72	95	27	75

表1 研究の方法



2章 研究対象地

2-1 成田山新勝寺表参道

2-1-1 歴史

成田山新勝寺は10世紀、平将門の乱が平定された際に創建されたとされる。関東における真言密教の中心としてありつづけてきた。門前町は成田山の興隆と共に江戸時代中期に成立した。その後江戸後期まで成田講の興隆により門前町としての性格を発展させた。当時は徒歩による参詣が中心であったため参詣者の宿泊施設、飲食施設が発達した。明治維新以降も参詣者が減少することはなかった。しかし鉄道路線の開通、バス、自動車による参詣の増加に合わせて宿泊施設は衰退、土産物屋、飲食店が発展した。また昭和40年代以降、周囲の宅地化により買い回り商店街としての性格も強めた。

2-1-2 参道における和風演出に関する事業、制度

成田市においては「成田市都市景観形成基本計画報告書」に景観形成の方向性が示されているが市が主体となって運用されている事業は無い。参道の仲町においては商店会の働きかけにより、壁面後退に伴う建築表層和風演出に対する資金補助が市

財源から平成7年以降行なわれている。これは建物更新時の瓦、白壁、和風看板などの和風ファサードに補助を行うという内容である。より新勝寺に近い上町では街づくりとして建築に関する主だった活動はないが、各住民が建築更新時に主体的に和風部位を用いている。

2-2 長野善光寺表参道

2-2-1 歴史

善光寺の開基の時代は定かになっていないが発掘調査によれば現在地に平安時代の堂の存在が確認されている。平安末期には善光寺信仰は始まっており、門前町は形成されていたと予想されるが、その後善光寺信仰の興隆と共に門前町、北国街道宿場町として発展した。門前町では徒歩参拝客の慰労のための宿屋、飲食店がこの当時発達した。明治維新後も善光寺参拝は続き、門前町としての性格はとどめた。しかし長野市が県都として発展するにあわせ参道沿道は商業中心としての性格を持つようになった。参道に面する大門町の建物はこの明治期に建てられたものが多い。現時点では参道沿道のほとんどが小中規模商店である。しかし自動車による参詣スタイルが中心となり昭和50年代以降、参道、特に大門地区は衰退し始めた。

2-2-3 参道における建築の和風演出に関する事業、制度など

善光寺参道では「長野市中心市街地活性化基本計画」の一環として和風演出に関する事業が行われている。これらはすべて長野市主体のもと行なわれている。現時点では参道蔵作り商店の活用の為に「まちかどミニ博物館設置事業」が行なわれている。加えて歩道整備の為に「善光寺表参道ストリートファニチャー整備事業」を行い、和風を意識させるような道路整備を行っている。また平成15年度からの事業として大門商店街ファサード整備事業が予定されている。

2-3 伊勢神宮内宮参道おはらい町通り

2-3-1 歴史

伊勢神宮は鎮座2000年を迎えたといわれている。内宮に続く参道は伊勢参りの重要な拠点として栄えていた。参道のおはらい町は室町時代に形成されたと言われる。現在の在来建築のほとんどは明治以降に建てられたものである。江戸時代から現代まで御伊勢参りの重要な拠点として、参詣者の宿泊施設などを発展させてきた。しかし昭和40年代以降、モータリゼーションによる観光形態の変化により、参道沿道は衰退の途をたどった。それ以降は土産物店、飲食店が中心となっている。現時点では昭和50年代から町並み保全と再生のための取り組みを始め現在に至っている。

2-3-3 参道における和風演出に関する事業

昭和54年に地元住民により内宮門前町再開発委員会が結成された。町並み調査としては昭和54年東京工業大学清家研究室の「おはらい町再構想計画書」、昭和62年伊勢市・中村研究室による「内宮門前町町並み調査報告書」がある。その後平成元年に住民主体の活動が実り、「伊勢市まちなみ保全条例」が制定された。同時に「伊勢市まちなみ保全事業」により保全基準に準じた建物修景に対し低利融資制度が整備された。

2-4 長浜御坊大通寺表参道

2-4-1 歴史

長浜御坊大通寺は17世紀に現在地に移転した。当時から真言宗伝道の要として機能し続けてきた。参道は参拝客慰労のための飲食店、土産物店としてそれ以降発展した。明治維新後も湖

北地方の真宗大谷派の信仰と伝道の要としてありつづけた。参道商店街は昭和30年代以降買い回り商店街としての性格を強め、アーケードを設置するなど近代化に努めた。昭和50年代以降衰退し、昭和60年以降、観光商業を目論み、アーケードを撤去し、参道の雰囲気を生かした参道の改修を進めてきた。

2-4-2 参道における和風演出

長浜市においては「博物館構想」に基づきまちづくり関連制度を整備し下位事業を行っている。参道における事業としては参道ファサード統一に対する

「魅力ある商店街づくり事業」「商店街統一コミュニティ形成事業」が市と住民の協同により1984年に行なわれた。この事業により、石畳舗装、建物セットバック、建物ファサードの統一が行なわれた。建物ファサード統一は厳格に強制されない紳士協定であるが、軒は一字瓦、外壁は白色、平連子格子(2階)、軒が深いものと規定されている。

表2 表層部位分類表

部位名	部位中分類	小分類	件数
屋根	外壁材	屋根瓦	12
		庇	11
		近下屋	11
		下屋	2
		看板	2
		その他	3
格子	外壁保護格子	金属	4
		木	2
		金属	10
		木	1
		木漆喰	1
軒裏	開口部格子	木	3
		木漆喰	3
		コンクリート	3
外壁	外壁荒台格子	コンクリート	3
		漆喰	14
		コンクリート	14
		木	15
外壁	垂木	非木材	15
		木	1
		非木材	1
		木	1
		非木材	1
外壁	非木造外壁	R C白塗装	23
		板塗付	4
		パネル系	13
		漆喰	1
外壁	木造外壁	漆喰	1
		板目	1

3章 成田における分析軸の抽出

3-1 成田山新勝寺表参道の選定

予備調査を行った都市を概観し、その中で和風部位の変容が著しいものを多く見出すことのできた成田山新勝寺表参道を分析軸抽出の為に選出した。表2中の網をかけた数字が地場在来のものと同じ形式をもったものである。全ての部位において過半数以上が地場在来のものとは違う形式である。よって成田山新勝寺表参道が分析軸の抽出対象地として妥当であると考えた。

3-2 表層部位の分類

成田山新勝寺表参道沿道建築の表層部位を分類したものが表2である。

3-3 表層部位分析の考察及び分析軸の抽出

成田の和風演出に関する演出の収集分類から以下の法則性を見出した。おのおの法則性を整理したところ「形式性」に関するもの、「形式性」と「物質性」に関するものの2つに区分することができた。

①形式性に関するもの

- ・コンクリート躯体の和風建築で打放しの物件は一軒だけであった。
- ・パネル系の物件で白を基調としていないのは一軒だけであった。
- ・格子においては在来のものに似た利用法、在来のものが18であるのに対し、在来的ではないものが12ある。

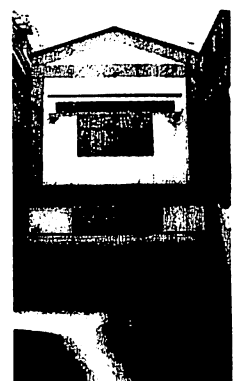


写真1 形式性例

- ・全ての外壁保護格子に関し機能的必然性は無い。
- ・在来的金属製連子格子に関し2階部に取り付ける機能的必然性を見出すことはできない。
- ・新規台格子に関し、台格子にする妥当性があるものはない。
- ・全ての物件において2階開口部に庇がついている場合1階開口部にも庇がついている。
- ・庇のある物件に関し1物件を除いて全て外壁色は白である。



写真2 物質性例

- ・新規物件では垂木型破風を用いた物件は一軒だけであった。
- ②形式性と物質性に関するもの
- ・在来的連子格子に関し1階部開口部につけられているものは全て木製であり、2階部は全て金属製である。
 - ・外壁として瓦を使う場合、1物件を除いて下見瓦は用いられず屋根瓦が用いられている。
 - ・一階部化粧垂木は2物件を除いて全て木製であった。
 - ・新規物件で漆喰製鉢巻があるものはなかった。全てはコンクリート製であった。

以上より和風部位の変容の方向性として「物質性」と「形式性」の2つがあることが分った。

3-3-1 「形式性」による和風演出

形式性の強調は和風部位の形状、色彩的コントラスト、連続性などの特徴的な形式を取り入れることで和風の演出を図るものである。往々にし純粋な意匠材であることが多い。似た形状を他の物質で再現する、形式を色調の変化で再現する、地場在来の形式ではないものを取り入れる、などが「形式性」の演出で見られた手法であった。写真1では外壁パネルで再現された破風、柱と漆喰の形式が「形式性」演出にあたる。

3-3-2 「物質性」の強調による和風演出

物質性の強調は和風部位の持つ質感を取り入れて和風演出を図る方法である。本来ならば地場在来の構造材が持ち合わせていた風合いであるのだが、純粋な意匠材として強調して用いられる例が見られる。写真2では屋根瓦の外壁的な利用と地場在来物件には見出すことのできない下見瓦外壁が、「物質性」演出である。

3-4 評価点の設定

表層分析により抽出された「形式性」と「物質性」に関する評価点を設定した。評価点の設定に際しては対象部位と地場在来部位との違いを容易に客観的に下すことができるものを設けた。結果として、形式性に関するもの4項目、物質性に関するもの4項目を設定した。この項目に適合する数が多いほど、在来地場和風様式との差異が大きくなる。

・形式性に関する項目

- ①形式性を表わす部位が本来の位置に取り付けられてない。
- ②形式性を表出する部位が本来のものと違う材である。
- ③形式性を表出する部位が在来のものと違う形式である。
- ④形式性を表出する部位が純粋な意匠材である。

・物質性に関する項目

- ①物質性を表出する部位が本来の位置に取り付けられていない。

- ②物質性を表出する部位が本来のものより物質性を強調している。
 - ③物質性を表出する部位が在来のものと違う形式である。
 - ④物質性を表出する部位が純粋な意匠材である。
- これらに基づき4章で参道沿道建築の部位個々に得点付けを行った。

4章 分析軸を用いた他都市和風建築の分析

4-1 長野善光寺表参道沿道建築の分析

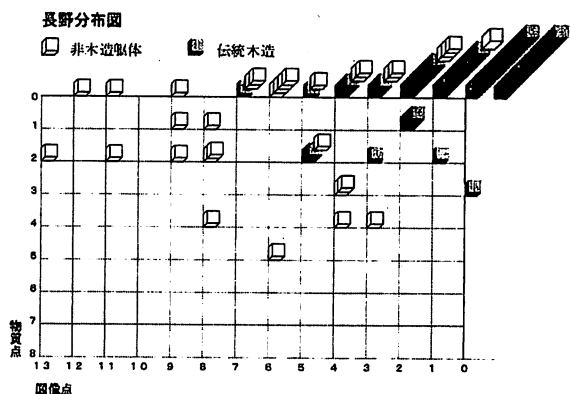
4-1-1 参道の在来的建築物の特徴

「善光寺大地震図会」および「善光寺祭礼絵巻」から江戸時代の参道の様子を窺い知ることができる。それによれば江戸時代においては屋根瓦もしくは板葺き、平入りで下屋を参道側に持つものが主体に描かれている。明治24年に発行された「信陽善光寺境内及長野市町明細之図」によると参道に対し平入り瓦屋根の建築が並んでいる。加えて現存する明治期の建築物から判断すると長野の在来地場の建築物は、平入り、下屋、瓦屋根、出桁、漆喰塗り込め、戸袋があるものが主流であると考えられる。

4-1-2 長野善光寺表参道沿道建築の分析

長野市においては非木造建築の形式性に偏った分布が見られる。これには道路幅員の大きさにより物質性よりは形式性に重きをおいた和風演出が行われているのが大きな要因であると考えられる。

4-1-3 分布図から得られた典型的長野和風



分布図上の典型例が写真3である。形式性の高い部位を地場在来のものではない素材で再現するという手法がこの物件においては、垂木型破風、垂木、格子に関し用いられている。

4-2 成田山新勝寺表参道沿道建築の分析

4-2-1 成田名所図会、現存する在来建築から判断すると、成田の在来工法による建築は瓦屋根平入りで参道側に下屋を持つ構成のものが主なものである

と判断される。現存する昭和初期に立てられた物件によると、唐草瓦、鬼瓦があり、漆喰、もしくは下見板の外壁をもち垂木型破風板をもつものが在来物件の主流をなしていると言える。



写真3 長野典型

4-2-2 分布図における典型的

成田和風建築

分布図上の典型成田和風物件が写真4である。コンクリート造躯体に庇、垂木などの和風部位を添付するという形がとられる。

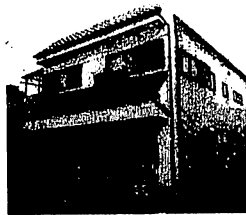
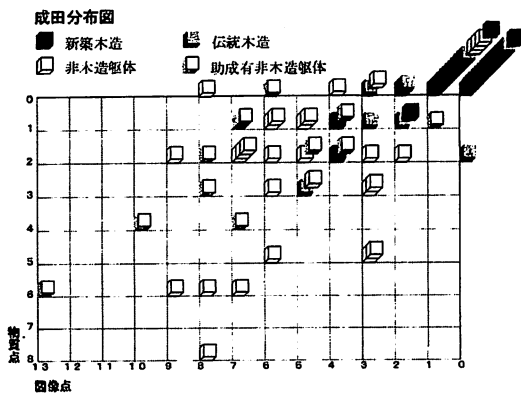


写真4 成田典型型

4-2-3 成田分布図からの考察

成田山新勝寺表参道においては形式性、物質性、に偏らず、原点から距離のある分布が見られる。これはこの参道において和風演出が各家主の自由裁量のもと行なわれている。その結果、非木造躯体に和風意匠材の添付という形で和風演出が行われることが大半であるためにこのような分布が見られた。

4-3 長浜大通寺表参道沿道建築の分析



4-3-1 参道の在来的建築物の特徴

長浜市教育委員会発行の「長浜のまちなみ・北国街道を中心として」によるとこの地域における在来建築の外観形式の特長は、2階部の目の粗い格子窓、一階開口部には出格子、平格子、2階部左右の袖卯建、軒高の低いツシ2階建て町屋が典型的長浜在来の建物であるとしている。



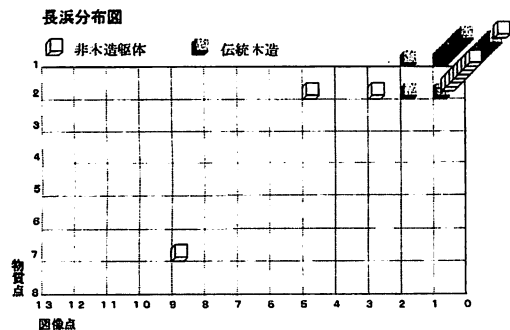
写真5 長浜典型

4-3-2 分布図から見られる典型的長浜和風建築

長浜においては防火地区指定のため新築の際は非木造躯体により建築されるが、写真5のように木造躯体に類するようにされたものが典型である。

4-3-3 長浜分布図からの考察

長浜においては極端に原点に近い分布が見られる。これは各家主が紳士協定に基づき、商店街と関わりの深い2社の地元建



築会社に施工を依頼しているため、類似した形式の物件が多く、このような分布が見られた。

4-4 伊勢市内宮表参道おはらい町通り沿道建築の分析

4-4-1 参道の在来的建築物の特徴

「内宮門前町並み調査報告書」によるとこの地域の建築の在来的な建築は、切妻、妻入り、下見板、張り出し南張り囲い、出格子、軒がんぎ板、のものが一般的な在来の建物である。



写真6 伊勢典型

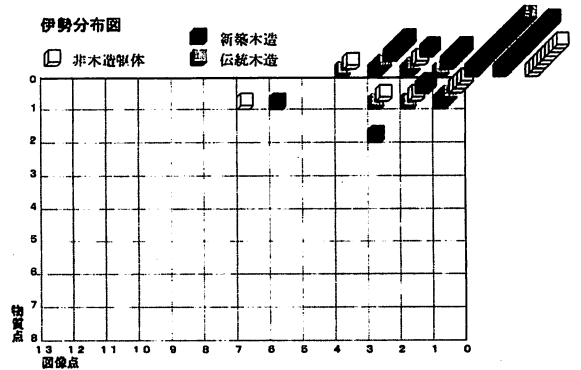
4-4-2 分布図における典型的伊勢和風建築

分布図から得た伊勢の典型が写真6である。町並み条例に準拠したものが建てられる。また低層鉄骨造のもでも下見板により木造に見紛うものが多い。

4-4-3 伊勢分布図からの考察

伊勢においては全ての物件が原点に近い部分に分布している。これはまちなみ条例の建築許可制度、低利貸付制度による地場在来意匠への奨励によるものである。

4-5 考察



各都市分布形の差異とそれを生み出したと考えられる要因をまとめると表3のようになった。

表3 分布差異要因

	建物分布形	奨励制度	建築行為に対する規制	地元推進力	参道幅員
伊勢	原点密集	整備基準に基づいた低利融資	整備基準及び融資時審査	強	狭
長野	図像性偏向	表彰制度	なし	並	広
長浜	原点密集	市・県補助金	紳士協定	強	狭
成田	均一分布	和風意匠に対する助成	なし	並	狭

5章 結論

- ・個々の建築部位に着目した独自の分析手法を提示した。
- ・部位に着目した分析手法により各都市の分布に共通した特徴を明らかにした。
- ・部位に着目した分析手法により各都市の分布の差異とその要因を明らかにした。